会員各位　　令和５年６月30日

研究紀要投稿要領

担当幹事　立松英子

障害児基礎教育研究会では、年に1回「教材工夫展」を開催するとともに、会員と教材工夫展への参加者に研究紀要を配布しています。昨年まではコロナ感染症予防のため、オンラインで実施していましたが、今年度の教材工夫展は10月８日(日)に対面で行うことになりました。

つきましては、教材工夫展での配布に向けて、研究紀要の原稿を募集いたします。

個別の実践に焦点を当てた「書式1」と教材教具に焦点を当てた「書式 2」をご用意しましたが、これらにこだわらず、「論考」や「コラム」でもかまいませんので、意欲的な原稿を期待いたします。

記

1　研究紀要の目的

本研究会の活動や成果を多くの人に知っていただき、基礎教育の発展に資する。

2　内容

教材教具を使った実践やそれに関連する論考などを募集する。

3　初稿締め切り　　令和５年９月８日（金）

＊初稿をいただいた後1-2 週間かけて編集・校正を行います。冊子全体の統一を図るため、主旨や内容を変えないようにしながら手を入れさせていただくことがありますが、最終原稿は必ずご確認いただきます。最終原稿の出稿から出来上がりまで1週間は必要ですので、締切は厳守してください。教材の撮影は、早めに行うことをお勧めいたします。

＊原稿は以下のフォームからご投稿ください。google のアカウントをお持ちでない方は、上記URL をブラウザの検索窓(🔎)に直接貼り付けてください。

https://forms.gle/4vrLvJpSNyDVY3P86

書き方に迷う場合は、会員全員に配布されている過去の研究紀要をご参照ください。投稿の意思表示やお問い合わせなどは、立松(eitatema@gmail.com)にお願いします。

4　発行日

令和５年10月８日(日)、教材工夫展当日に配布します。教材工夫展に参加されなかった会員には郵送いたします。

5　原稿の作成方法

MS-Word で作成してください。その他のアプリケーションには対応できません。

研究紀要執筆要領

教材教具を用いた基礎教育の意義を多くの人に知っていただき、実際にやってみようという気持ちになっていただくことが重要です。お子さんの状態や取組の過程を、第三者が想像できるように、具体的にお伝えください。

＊余白は上 30mm、下 30mm、右 28mm、左 30mm、文字数・行数は、40 文字×37 行、文字は 10.5p でお願いします。標準的な書式は、「書式１」「書式２」を参考にしてください。
＊同じことを表す言葉（例：シート・ボード・パネル・板・盤／ペグさし・棒さし／教師・教員/子ども・児童など）は統一してください。会員は教育・福祉・医療など多職種に渡るので、学習を提供する側は、「支援者」としてください。
＊本人もしくは保護者の了解を得て、その旨を文中に記載してください。また、個人の特定につながる情報はお控えください（居住地の記載はＦ県Ｓ市→Ａ県Ｂ市、Ｎくん→Ａさん、など）。

書式1:　事例に焦点を当てて（複数の教材を使って事例の成長を追った場合など）

〇〇〇〇〇〇（12-14 ポイント）

－＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊－（11-12 ポイント）

誰にでも当てはまるようなテーマは避け、対象や学習の特徴がわかるようなテーマにしてください。

不適切な例: 障害のある子どもへの教材教具の活用

適切な例: Aさんが自ら物に手を伸ばすまで　－視覚の発達に焦点を当てて－

報告者:所属（職名）〇〇〇〇〇（〇〇）

氏名　〇〇　〇〇

【子どもの様子（例）】　〇さん（小5　女）

基礎情報: 小頭症。脳性麻痺。てんかん。愛の手帳1度　身体障害者手帳1級。

食事: 鼻腔流動食1日3回。経口摂食の訓練を家庭で1日2回行っている。

動き: 背臥位で足をつっぱって移動する。足の裏や顔に触れられることを嫌がる。
よく動く右手を顔にもっていき、チューブを抜いてしまうことがある。

視覚: 強い光刺激にも反応があらわれにくい。

聴覚: 音の刺激には敏感であり、眼球を動かしたり、音のする方に顔を向けたりする。

1　**事例の背景**　　テーマ設定に至った動機や背景を書く。

2　**これまでの様子**　　取り組み以前の課題や働きかけなど。

3　**学習（支援）の経過**　　実施した場所や時間、回数、教材の写真などを含める。

＊写真は文中に貼り付けてください。jpg で用意する必要があるときは、別途ご連絡致します。

テキストボックス（枠線）

図（jpg など）

＜文中で図の位置が崩れないようにするための推奨設定＞

①　「挿入」→「テキストボックス」→「縦書きテキストボックスの描画」

②文中の入れたい場所に枠を作る→テキストボックスの枠を選択し、コマンド「テキストボックス」→ 「文字列の折り返し」→「四角形」を選ぶ（周囲の文字が図の外側に押し出されます）。

③枠内にカーソルを置き、「挿入」→「画像」→「画像（P）…」を選択しコンピュータ内の画像を選ぶ。「テキストボックス」の枠線は残してください。

4　結果　　感想ではなく実際にあったことを書く。

・学習の状況の変化

・対人行動や日常行動の変化

・保護者や同僚の評価など

5　考察とまとめ　　執筆者の気づきや強調点を書く。

6　文献　　引用文献や参考文献はぜひ書いて下さい（書式は次ページ参照）。

＜文献の書き方＞

①著書の場合:著者名（発行年）:引用部分の表題、In:本の編者、書名、発行者、pp 最初のページ-最後のページ

②雑誌論文の場合:著者名（発行年）:表題、雑誌名、巻、号、最初のページ-最後のページ

③コンマ（,）やピリオド（.）、コロン（:）、カッコの後には必ず半角スペースを入れる。

種類	書き方の例
著書全体	木下康仁(2017): グラウンデットセオリー・アプローチの実践　質的研究への誘い. 弘文堂.
分担執筆部分	無藤隆(2003): 教育心理学の研究論文・著作物による貢献. In: 日本教育心理学会編 教育心理学ハンドブック. 有斐閣, 第 3 章, 第 1 節, pp.29-33. ＊著書の複数ページの場合は pp をつける
雑誌論文（著者 3 名）	藤田一郎・田中宏喜・谷川久(2001): 腹側視覚経路における両眼視差と面の情報処理. Vision 13, 2, 87-91. ＊雑誌論文の場合、pp はつけない
Web からの引用	中央教育審議会(2016): 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）　（平成 28 年 12 月） http://www.mext.go.jpb_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/・・・(2021 年 6 月 3 日アクセス)

書式 2:　教材教具に焦点を当てて

＊特定の教材教具のよさを表現したい場合は書式 2 がお勧めです。

＜1 枚目＞

教材教具名:〇〇〇〇〇

教材の写真をここへ

所属（職）：＊＊県立〇〇特別支援学校教諭

氏名　〇〇〇〇〇

＜材料＞サイズも明確に。

・

・

・

＜作り方＞

①・・・

②・・・

＜作成上の留意点・購入情報＞材料で特殊なものは、調達場所や値段を記入してください。

・

・

＜2 枚目以降＞

1　教材製作の背景　この教材を製作した動機やその背景を書く。

2　ねらい　：　「教材作成の背景」を受けて「ねらい」を書く。

3　工夫点　：　サイズ、色、形、提示の方法やタイミングなど。

4　学習（支援）の経過

子どもの様子

①　○（A, B, C, D••）さん、（学校、学部、学年あるいは年齢, 性別） ②　医学や福祉の情報（診断名、合併症（てんかんなど）、手帳、受けている福祉サービス等） ③　プロフィール（観点例） ＜姿勢＞＜移動運動＞＜探索•操作＞＜食事＞＜排泄＞＜生活習慣＞＜コミュニケーション（理解言語•表出言語•要求表現•指示伝達手段）＞＜社会性（対人志向性や社会的行動）＞＜行動面の特徴＞＜諸検査の結果＞など。 ③　家庭環境や保護者の願い （ここまでを、□で囲む）

期間　：　例:○年○月～△年△月

形態　：　場所、頻度、時間、支援者と子どもの割合、他の学習との関係など。

内容　：　教示の方法、受信―発信の手段やほめるタイミングなど。

6　結果　感想ではなく実際にあったことを書く。子どもの変化のみならず、周囲の大人の見方や指導方針（療育方針）が変わったら、そのことにも触れる。

7　考察とまとめ　著者の気づきや強調したい点を書く。読者への貴重なメッセージになる。

8　文献　「書式1」の「6 文献」参照。

ー書き方のコツまとめー 1）常にテーマを意識して、テーマからはずれないように書く。 2）教材の特性だけでなく、子どもとの空間関係、提示やほめ方のタイミング等を示す。 3）参考にしたい人が真似できるように、回数やサイズ等できるだけ具体的な情報を記載する。 4）状況を想像しにくい抽象表現は避ける（✕寄り添う•理解する⇒○視線や手の動きを観察し、子どもが関心を示す特性を取り入れた教材を製作した。たとえば•••」 5）「かなり」「とても」「しっかり」「きちんと」等読み手によりイメージが異なる表現を避ける。 6）「結果」には事実を書く。自分の考えや解釈は、「考察とまとめ」に書く。